

第3回 幹事会 議事録

日 時	2017年3月14日（火）17時00分～19時30分
場 所	伏見ライフプラザ13階 エコパルワークショップルーム
出 席 者	(実行委員・チーム員) 千頭、長谷川、西野、杉野、大鹿、尹、楠美、山田 (事務局) 蒲、丹羽、天野、金井、小木原、森、西、押越
決定事項	
<p>①2017年度の代表幹事、チーム代表の決定方法について</p> <p>1 チームに属する実行委員及びチーム員の中から、自薦・他薦を募る。 ※実行委員在任期間が10年を超えるメンバーはあらかじめ対象から外し、候補者として可能な人のリストを作成し、示す。 ※各自がどのチームに入りたいかという意向調査も並行して実施。</p> <p>2 4月24日に投票を実施。 ※投票権は、チームに属する実行委員、チーム員及び事務局職員が持つものとする。</p> <p>②暫定予算について 会議資料「平成29年5月総会までの暫定支出」のとおり承認される。</p>	
議 事	
<p>(1) 第4期ビジョン検討会議からの報告について</p> <p>○事務局より第8回第4期ビジョン検討会義で議論された概要を説明。 ○事務局よりこれまで議論されてきた第4期ビジョンの検討内容について資料を基に説明。(資料1～16ページ)</p> <p>① 第4期ビジョン(案)について</p> <p>・ESDの日本語訳については、国では「開発」という表記を使用しているが、環境分野の専門家の間では「発展」という表記を使用している。「発展」ではなく「開発」の表記を使用しているのはなぜか。そのことについて議論はされたか。<楠美></p> <p>→ESDユネスコ世界会議があったときに、当初、文部科学省は「発展」、環境省は「開発」を使っていたが、途中から政府として「開発」で統一することになったので、それに準じている。「開発」には工事などだけでなく、人間開発などの意味も含まれていると聞いている。<森></p> <p>→環境大学は名古屋市の計画に基づき事業を行っているため、市が使用している「開発」の方が良いと思う。<蒲></p> <p>→「環境大学」として「発展」を使用するか、「開発」を使用するか議論した方が良いと思う。<楠美></p> <p>② チーム編成(案)について</p> <p>・全チーム横断のアクションプラン(5)に、ESDの「講座」とあるがESDの取組は講座だけでは</p>	

ない。また、(6)では、学区という表記が使われているが、対象を狭めてしまうため、外した方がよい。〈杉野〉

・「防災」や「子育て」は「環境」分野か。〈楠美〉

→「防災」には、例えば、自然破壊が災害につながるといった関連性がある。〈蒲〉

→「環境」という意味を広く位置づけると何でも入ってしまう。〈楠美〉

→「防災」には、当初新たなキーワードを増やすことで、対象層を広げるという議論があった。〈尹〉

→楠美先生からの意見については、新しいメンバーの人たちで議論してもらえば良いのではないか。〈大鹿〉

③ 実行委員会規約の改正（案）について

・任期について、例えば若い時代に10年委員を務めた人が、40～50代の時に再度委員をしたと思った時は、過去に努めた任期により、再度委員にはなれないのか。〈長谷川〉

→名古屋市の審議会の方針では、「引き続き」という文言があるので、一度辞めた場合は任期についてはリセットされるが、今回の環境大学の規約では、再度委員になることはできない。〈蒲〉

→任期（10年）はもっと短くても良いかもしれない。〈西野〉

・10年という任期が適切かどうか、一度辞めた人が再任できるかどうかは、2017年度の継続審議としたい。〈蒲〉

→予算に限りがあるため、チーム員数の上限数も決めておいた方がよい。〈長谷川〉

④ 2018年度までに実施・決定する事項（案）について

・チーム代表の決定方法について、立候補がなかったらどうするのか。〈西野〉

→なるべく立候補してほしいが、いなければ推薦してほしい。〈小木原〉

・委員の在任期間が10年経過している人がチーム代表になると、すぐにチーム代表を辞めなければならないので、新しい人へどう引き継ぐかは考えないといけない。〈西野〉

→できるだけ在任期間が10年を経過していない人に新リーダーになって欲しい。来年度も継続審議の部分があり、2018年度以降も実行委員として実際に活動していただく人たちに検討して行って欲しい。〈小木原〉

◎2017年度の代表幹事、チーム代表の決定方法について

1 チームに属する実行委員及びチーム員の中から、自薦・他薦を募る。

※実行委員在任期間が10年を超えるメンバーはあらかじめ対象から外し、候補者として可能な人のリストを作成し、示す。

※各自がどのチームに入りたいかという意向調査も並行して実施。

2 4月24日に投票を実施。

※投票権は、チームに属する実行委員、チーム員及び事務局職員が持つものとする

⑤ 新チームの2017年度の事業計画（たたき台）について

○事務局より資料を基に説明<資料17～21ページ>。チーム代表が決まるまでのたたき台として事務局から提示。

⑥ 2017年度予算について

○事務局より資料を基に概要を説明。(資料22ページ)

・例えば広報チームのメンバーが活動サポートチームに参加することもあるので、その分の謝金も計上しておく必要がある。<長谷川>

→他チームからの応援を求める場合は、各チームの事業費の中で計上する方法がある。<森>

・「主催事業チーム」という表現を変えたい。イベントだけのような感じを受ける。<杉野>

→「企画チーム」という名称に変更。

(2) なごや環境大学 2017年度暫定予算

① 2017年度暫定予算(総会まで)について

○事務局より資料を基に概要を説明。(資料23ページ)

◎資料のとおり暫定予算が承認される。

(3) 各チーム 2016年度総括(中間報告)

○各チームの2016年度の総括については、4月24日の幹事会で確定し、総会に提出。

④ 環境ハンドブック検討チーム

○尹委員より資料を基に概要を説明。(資料24ページ)

・大学の生協からハンドブックの販売をどうするかと聞かれたので、販売はしなくて良いと言ってしまった。<千頭>

・在庫処理のために無作為に配布していく方向性ではなくなったため、これまで通り有償販売を前提としていただきたい。<尹>

・ハンドブックをテキストとして使用することは、共有講座の評価事項にも含まれるため、2017年度前期より、講座企画者に1部ずつ配布をした。<蒲>

2. その他

(1) 愛知学長懇話会の運営方法等について報告

○事務局より概要を説明。名古屋市総務局が出席した愛知学長懇話会の会議において、資料「平成29年度からの愛知学長懇話会の運営方法等について」のとおり、環境大学の共有講座は愛知学長懇話会の事業から外れることになった旨を報告。愛知学長懇話会から環境大学へ直接の連絡はなかった。

(2) 2017年度事業選定に向けた候補事業リスト

○事務局より資料「2017年度事業選定に向けた候補事業リスト」を基に概要を説明。資料左端の「★」は、5月22日の総会前に動き出さないと間に合わない事業。事務局主体のものは動きは

じめていいか確認をとるため資料を提示。

・「東山春まつり」とはどのような事業か。＜長谷川＞

→「東山春まつり」については、ガイドブック配布を目的とした広報 PR イベントとして出展。今年度まで実施していた TOKAI ECO FESTA の代わりにの事業として、環境学習センターと共同で事務局主体で実施。＜蒲＞

→今年度の秋まつりに出展した。緑政土木局との連携の足がかりとしていきたい。＜森＞

・プランタンコンサートについてなぜ実施しているのか。アマチュアのオーケストラでは集客が難しいし、コンサートと環境は関係ない。過去も含めてこれだけの予算をかける必要があるのか。＜楠美＞

→コンサートについては、来年度を最後とする予定。＜蒲＞

→もともとは、環境問題に関心の薄い層をターゲットとするために始まった事業。その後ガイドブックの配布等広報的な側面が強くなっていった。＜長谷川＞

→コンサート事業の実態は「主催」ではなく「協賛」。内容としては広報チームの事業ではないか。＜杉野＞

・環境デーのワカモノビレッジは、どのチームに引き継がれるのか。＜長谷川＞

→そろそろ動いていく時期にきているが、チーム員との相談が必要な事業。どなたに相談すれば良いか迷っている。＜天野＞

→いきなり新しいメンバーに引き継ぐのは難しい事業であるので、前回から携わっているメンバーが関わると良い。＜西野＞

(3) 尾張西部生態系ネットワーク オブザーバー加盟

○事務局より資料を基に説明。愛知県が音頭を取り、県内9つの地区別に生態系ネットワーク協議会を作っており、昨年11月に尾張西部生態系ネットワーク協議会が立ち上がった。長谷川さんが会長。なごや環境大学はオブザーバーとして加盟することになった。

○3月26日の春のオープンカフェについてチラシを基に説明。

→各自チラシを持ち帰って広報に協力してほしい。＜西野＞